

## 今回のテーマ

## 日本産青果物の消費者グループインタビュー

香港に輸入される青果物は、中国本土からのものが圧倒的に多くなっています。一方で、日本産青果物はプレミアム志向の高所得層を中心に人気があり、特に果物は着実にシェアを拡大しています。日本産は「高品質・安全・季節限定」のイメージが強く、スーパーや日本食レストランだけでなく、地元の市場やオンライン販売にも広がっています。本レポートでは、三人の香港人に日本産青果物について座談会形式で話を聞かせてもらいました。香港人の日本産青果物に対する好みや消費パターンなどがより理解いただけると幸いです。



グループインタビューの様子（筆者撮影）



日本産青果物はクオリティが高いイメージがある（筆者撮影）

座談会実施日：2025年12月20日

参加者：Karmi Yip  
年齢・性別：30代、女性  
職業：OL・航空会社  
家族構成：独身、一人暮らし



Karmi Yip氏（筆者撮影）

参加者：Colin Li  
年齢・性別：30代、男性  
職業：食品メーカー・デザイナー  
家族構成：独身、家族と暮らす



Colin Li氏（筆者撮影）

参加者：Cathy Tsang  
年齢・性別：20代、女性  
職業：エンターテインメント・マーチャン  
ダイザー  
家族構成：カップル、家族と暮らす



Cathy Tsang氏（筆者撮影）

## 最近の野菜・果物の消費習慣

**ドミニク**：青果物の購入や喫食の頻度と一週間の購入量について、教えてください。

**Cathyさん**：以前家族と住んでいたときは、ほぼ毎日青果物を食べていましたが、今はパートナーと住んでいるので、食べる回数が減ってきました。食べる頻度は直近の健康状態によって異なります。例えば仕事が忙しくて疲れ気味の時は、キウイやブルーベリーを食べて栄養を補給します。一週間の具体的な購入量ははっきりしませんが、体の状況次第で柔軟に取り入れています。

**Colinさん**：健康のために、全体の食事の約80%を青果物で摂るよう工夫しています。購入は家族に任せていますが、家族で「どんな果物を食べたい？」と相談しながら選ぶ習慣があります。家族の好みを反映し、一週間いつでも頻繁に購入しています。

**Karmiさん**：毎日ではなく、時折スーパーへ行き、季節のものや産地、時にはブランドを意識しています。一週間の量ははっきりカウントしていませんが、日常的に取り入れるための適度な量を購入しています。

**ドミニク**：健康のために、もっと青果物を食べるための工夫はありますか。

**Cathyさん**：健康に問題がある時は果物を積極的に摂取するよう心がけています。家には必ず果物を置いてあって、いつも身の回りにあります。ただ、果物を食べ切れず腐らせてしまう悩みがあり、長持ちするパックがあれば、もっと嬉しいです。

**Colinさん**：外食の際には野菜入りの料理やおかずを注文し、また、果物ジュースを週1回購入します。こうした簡単なルーチンで摂取頻度を保つようしています。

**Karmiさん**：平日のランチは外食が多いですが、忙しくない時は弁当を作って、会社に持っていきます。その時はなるべく多くの野菜を入れるようにしますし、日本産キャベツが好きなので、多くの場合加えるようしています。

## 日本産青果物に対するイメージ

**ドミニク**：日本産青果物についての印象は？

**Karmiさん**：日本産青果物はプレミアム感があり、特別な機会にのみ選びます。値段は非常に高いですが、有機栽培が多く、他国産より味が優れ、品質が全体的に優れていると感じます。季節や産地を重視する中で、日本産はプレミアムな選択肢として位置づけています。

**Cathyさん**：値段は他の国のものより高いので、普段はなかなか食べられません。お祝いや大切な時に購入し、家族と食べる人が多いです。

**Colinさん**：私も似たような感じで、中秋節やクリスマスなどのタイミングに日本産青果物を購入して、家族や友人にプレゼントします。

**ドミニク**：最近購入した印象的な日本産青果物は何でしょうか。

**Cathyさん**：最近購入して一番印象的だったのはメロンです。他国産も食べたことがありますが、やはり日本産の方がおいしく感じます。

**Colinさん**：最近家族が日本産のぶどうを購入しました。そのぶどうはおいしく、家族全員が楽しめました。

**Karmiさん**：最近料理を作る時はよく日本産のキャベツを使っています。また日本産のさつまいもよく食べています。近所のスーパーマーケットで簡単に手に入りますので、日常の野菜として使っています。全体的に見ると、日本産青果物は品質が高いというイメージがあります。



日本産メロンは自宅用も贈答用も人気  
(筆者撮影)



日本産のさつまいもはよく食べられる青果物の一つ  
(筆者撮影)

## 日本産青果物と他国産の比較

**ドミニク**：日本産と他国産青果物に対して、ご自身の好みとその理由を教えてください。

**Karmiさん**：日本産が好きです。品質の信頼性と安全性が高く、味や新鮮さも日本産が優位です。

**Cathyさん**：明確な好みの差はあまりなく、状況次第で柔軟に選んでいます。日本産青果物は安心・安全というイメージがあります。

**Colinさん**：日本産を好みます。日本産には、安全性と味の安定性を期待できます。

## 日本産青果物の購入方法と選択基準

**ドミニク**：普段は主にどこで青果物、特に日本産青果物を購入していますか。またその理由を教えてください。

**Cathyさん**：スーパーマーケットや市場で購入することが多いです。青果物を購入する時は自分で選んでピックアップしたいです。ネットでの購入は利便性は感じますが、自分の目で見て選べないので、あまり使いません。

**Colinさん**：HKTV Mall（香港のオンラインショッピングプラットフォーム）の実店舗で購入することが多いです。自分で選べる点が好みます。

**Karmiさん**：スーパーマーケットと果物卸売市場が多いですね。果物卸売市場は価格が安く、新鮮で品揃えが豊富なため、頻りに利用しています。

**ドミニク**：青果物を購入する際に重視するポイントは？

**Cathyさん**：価格が最も重要で、産地は次点となります。外観や産地表示も考慮しつつ、コストパフォーマンスを優先に考えます。

**Colinさん**：新鮮さが一番大事ですが、そのあとは品質と価格になります。いつも大体同じ種類の青果物を購入していますが、小売店のプロモーションに影響されて、日本産青果物を購入したこともあります。産地表示が大体品質の目安になります。また外観の良さも決め手の一つです。

**Karmiさん**：安さと鮮度が最優先です。

**ドミニク**：有機栽培の青果物への関心と購買経験を教えてください。

**Cathyさん**：識別方法がわからないので、あまり積極的に購入していません。また値段の高さが主な障壁となっており、実際の購入経験は少なく、日常的に選ぶほどではありません。

**Colinさん**：私も同じく、価格と識別の難しさがネックです。

**Karmiさん**：あまり購入したことがないです。とにかく新鮮であればいいので、有機栽培かどうかは逆に気にしません。

## 日本産青果物を購入する時の課題

**ドミニク**：日本産青果物の購入・消費での困りごとはありますか。

**Cathyさん**：一人暮らしだと、果物を買っても食べ切れず腐らせてしまうのが最大の悩みです。高価な日本産の果物は腐ったら無駄になり、毎日同じものを無理に食べたくない、大容量中心の商品より、小サイズのもの欲しいのですがなかなかありません。また、オンライン購入では偽物が心配です。住んでいるエリアに日本産の選択肢が少ないのも不便です。日本産の果物は贈り物として高級感があり、見た目が豪華ですが、日常使いにはハードルが高いです。

**Colinさん**：直接的な課題は少ないものの、贈り物として日本産の果物を買う場合、ブランドを意識し、品質の安定性を求めています。Cathyさんが言った通り、オンライン購入の場合、偽物を買ってしまう可能性がある、なるべく実店舗で買いたいのですが、近所では日本産青果物を買える場所が限られています。

**Karmiさん**：日本産の果物は、信頼できる店舗でしか買いません。また日本産の果物は甘すぎて高齢者や子供に適さない場合もあり、選択が限られています。

## 日本産青果物と健康意識の関連性

**ドミニク**：近年の健康意識の高まりが、日本産青果物の購入や消費に与える影響は？

**Cathyさん**：健康に問題がある時に果物を食べるようになり、意識も高まっています。自分の体を大事にしたいので、安心・安全に食べられる青果物を食べたいと考えています。色々な国で青果物を生産していますが、やはり日本産のものが全体的に高品質というイメージがあります。

**Colinさん**：年を取るにつれ健康意識が強まり、果物の摂取が増えました。また野菜入りの料理を注文したり、バランスの良いダイエットをしたりするよう心掛けています。日本産青果物はクオリティが高いので、選択肢があれば、なるべく選択するようにしています。

**Karmiさん**：健康志向から普段から多くの青果物を食べるようにしています。また弁当を作る時には、日本産青果物を入れたりしています。その理由は、日本産青果物のクオリティが高いからです。信頼できるブランドを選び、品質・安全性を確保しています。



Colinさん：健康のために、日本産青果物を入れた料理を食べている（筆者撮影）

## 今後期待する日本産青果物の商品

**ドミニク**：皆さんは日本産青果物に対して、かなり良い印象を持っていますが、日本産青果物で今後期待する商品がありますか。

**Karmiさん**：ジュース形式の商品や、安価な小パックサイズのものが見たいですね。日常的に手軽に取り入れられるよう、価格を抑えたコンパクトなパッケージを期待しています。

**Colinさん**：小さなパッケージが購入を促進すると考えます。現在の大容量中心の商品より、少量で試しやすいサイズが、消費者の購買意欲を高めると思います。

**Cathyさん**：長持ちする商品が理想で、特に野菜の包装方法の改善が課題です。また、健康問題を抱えた時に特化した果物商品、例えば栄養補給しやすいものを増やしてほしいと望んでいます。



より多くの日本産青果物ジュースが期待されている（筆者撮影）

## 結論

今回の座談会を通じて、日本産青果物は「高品質で安心・安全なプレミアム商品」として強く認識されていること、健康志向の高まりとともに消費意欲が増していること、その一方で価格の高さや販路が限られていることに伴う日常的な利便性の課題があること、が浮き彫りになりました。

日本産青果物は健康や品質志向の高い消費者から支持を集めていますが、更なる浸透のためには、価格・鮮度保持・容量・販路拡大といった点が改善の鍵となってくると思います。価格に関して、日本産青果物は他国産より高いというイメージがあります。もう少し手頃な価格になれば香港人の購入意欲が高まると思います。鮮度保持と容量は連動しますが、果物を食べ切れず腐らせてしまうという悩みが聞かれます。長持ちするパックや小サイズの商品が必要ではないでしょうか。また販路に関して、日系スーパーだけではなく、ローカル系のスーパーや一般の青果物小売店でも購入できるようにしてほしいとの意見がありました。

こうした声は、生産者や小売事業者が香港人のライフスタイルに寄り添った商品開発を進める上で貴重な示唆を与えることと思います。こうした課題の解決を通じ、日本産青果物が、将来的に、より身近な「日常のプレミアム」として定着することを期待しています。

### 【レポート執筆者】



日本食品海外プロモーションセンター（JFOODO）  
海外フィールドマーケット（香港）

チャン・ドミニク・ゲリー（Dominic Gary Chan）

2003年～2007年日本での留学・就職経験後、香港駐在日本人向けのフリーペーパーや訪日観光のフリーペーパーの発行と運営を行う。現在は、日系の旅行代理店に在籍し、主に日系企業の宣伝サポートや販路拡大の支援、自治体による香港人向け情報発信のサポート等を行っている。  
香港の日本語情報誌（食品業界を含む）の営業および編集長兼社長としての経験から、現地飲食関係に幅広いネットワークを持つ。

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェットロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェットロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。